

**接続政策委員会（第60回）を踏まえた追加の
ご質問に対する回答について
（ワイヤレス固定電話関連）**

**2022年4月20日
ソフトバンク株式会社**

質問 1 接続政策委員会（第60回）資料 2 において、「メタル I P 電話回線の配線設備の減分設備原価を正しく把握する必要」との指摘がなされていることについてお伺いします

質問 1-1

メタル I P 電話回線の配線設備の減分設備原価が接続料原価に影響を与えるものであるか、また、資料 1-2 において N T T 東日本・西日本から示されたワイヤレス固定電話の導入スケジュールも考慮して、その影響の程度をどのように考えるか、ご教示ください。

当社の回答

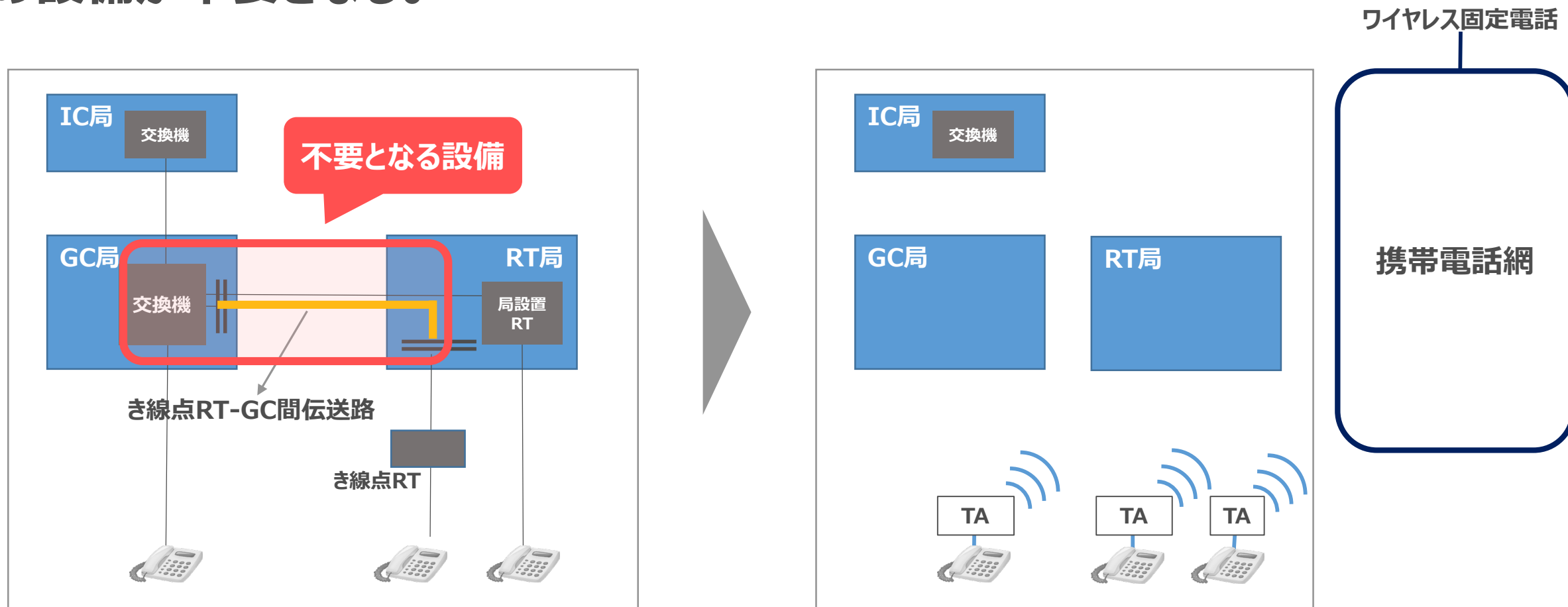
ワイヤレス固定電話切替による配線設備の減分設備原価が接続料原価に与える影響については、收容局エリア全てがワイヤレス固定電話に切り替わる場合、当該收容局の加入者交換機等の設備が不要となるため、接続料に影響すると考えます。

また、收容局の一部がワイヤレス固定電話に切り替わるケースでも、き線点遠隔收容装置(き線点RT)の設置が不要となることや、き線点RT-GC間伝送路コストの低減が考えられることから、接続料に影響があると考えます。

ただし、その影響の程度については、ワイヤレス固定電話への切替スケジュール等がNTT東西殿より詳細提示され、実際に検証後初めて明らかになる認識です。

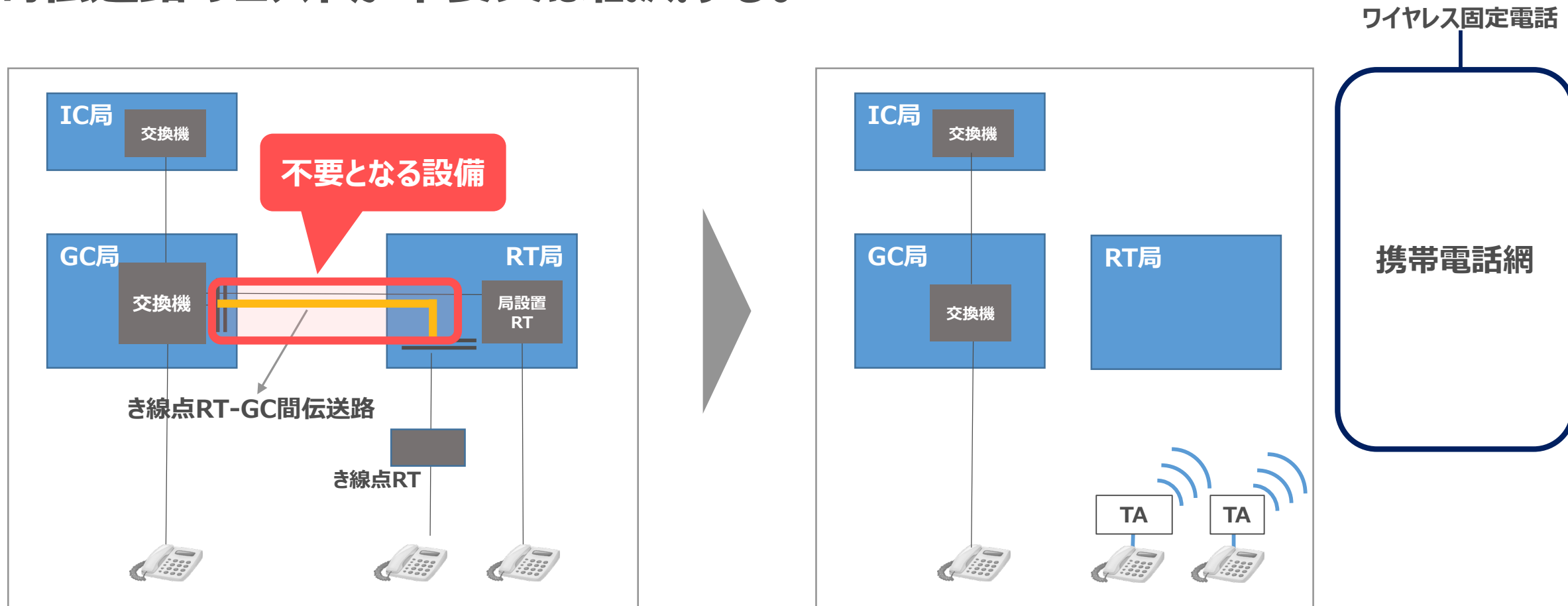
【参考】接続料原価への影響について①

收容局エリア全てがワイヤレス固定電話に切り替わる場合、加入者交換機等の設備が不要となる。



【参考】接続料原価への影響について②

收容局エリアの一部がワイヤレス固定電話に切り替わる場合、き線点RT-GC間伝送路のコストが不要又は低減する。



質問 1 接続政策委員会（第60回）資料 2 において、「メタル I P 電話回線の配線設備の減分設備原価を正しく把握する必要」との指摘がなされていることについてお伺いします

質問 1-2

質問 1-1 への回答を踏まえ、接続料の算定に際して何らかの対応を講じる必要があると考えるか、ご教示ください。

当社の回答

質問 1-1 回答の通り、**現行の8次PSTN-LRICと9次IP-LRICの組み合わせモデル**適用期間中もワイヤレス固定電話への切り替えにより、配線設備に関しては接続料原価が低廉化される部分があると考えますが、**現行の**LRICモデルにそのロジックを反映させることは困難であるため、モデルに反映されない期間の接続料原価低廉化分については、具体的な影響額も考慮しつつ、後年に繰り延べる等の措置をとることが適当と考えます。

なお、**次期**LRICモデル検討時には、当該低廉化ロジックの反映が必要と考えます。

また、仮にIP網移行期等特殊な状況により接続料が上昇するようなことがあれば、その上昇分を後年度に繰り延べて平準化することにより、接続料上昇を抑制する必要があると考えます。

【参考】LRICモデルへの反映について

次期LRICモデル検討時には、モデルへの反映について検討が必要

